

今日のキーワード 米国の雇用統計 (米国)

米国の雇用統計は毎月第一金曜日に前月分が発表され、失業率や非農業部門雇用者数が注目されます。非農業部門雇用者数は、天候などにより振れの大きい農業従事者や軍人などを含まず、雇用への景気変動の影響をより表すと考えられます。FRB(連邦準備制度理事会)は雇用の最大化と物価の安定を2大使命としており、雇用統計は最も注目される経済指標の一つです。

ポイント1 非農業部門雇用者数は6カ月連続で20万人超の増加 年末年始の寒波の影響から脱し、失業率も低下

■米国では年末年始に大規模な寒波に襲われ、景気が停滞したことなどから、雇用も悪化しました。しかし、その後は景気回復とともに持ち直し、失業率は3月の6.7%から7月は6.2%まで改善しました。また非農業部門雇用者数は、2月以降6カ月連続で前月比20万人超の増加となっています。この指標は、労働力人口約1億6,000万人のうち、月間に雇用が何人増加したかを見るもので、ほかの条件に変化がなければ、失業率を0.1ポイント低下させるには約16万人の増加が必要と考えられます。

ポイント2 注目は、労働市場の「質」へ FRBが指摘する「労働市場のスラック(たるみ)」

■FRBは「労働市場のスラック(たるみ)」を指摘しています。具体的には、「経済的理由によるパートタイム就業者数」、「自発的離職者比率」、「賃金の上昇率」、「長期失業者数」、「労働参加率」などの指標を指し、『イエレンFRB議長のダッシュボード(自動車の運転席にあるメーター類)』とも言われています。今後は、失業率の低下や雇用者数の増加に加えて、こうした労働市場の「質」の面の改善が必要とされています。

■これらの指標はリーマン・ショック以降改善しているものの、そのスピードは緩慢な状況です。なかでも「賃金の上昇率」は、前年比+2.0%程度の低い伸びにとどまっています。賃金の上昇が緩慢なままでは、物価の上昇も抑えられると考えられます。



今後の展開 労働市場の改善は、利上げ時期の具体的な示唆へとつながるか？

■労働市場の「質」の改善も徐々に進む見込み
失業率を安定的に低下させるには月15万人~20万人の非農業部門雇用者数の増加が必要と見られています。景気拡大が期待されるなか、足元の雇用者数の増勢は続くと見込まれ、失業率の低下基調が続くと期待されます。こうしたことから、労働市場の「質」の改善も徐々に進むと考えられます。

■次回FOMCで利上げ時期の示唆は得られるか？
8月22日のジャクソンホールでの講演でイエレンFRB議長は、「労働市場のスラック」を改めて指摘するとともに、労働市場は回復してきているとの見方を示しました。今月16日からのFOMCでQE終了後の利上げの時期について、これまでよりも判断が前倒されるような表現につながるのか、今週金曜日に発表される最新の雇用統計に注目です。

ここもチェック! 2014年08月27日【デイリー No.1,941】最近の指標から見る米国経済(2014年8月)
2014年08月26日【キーワード No.1,400】ジャクソンホール(米国)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。